

Noise after total knee arthroplasty has limited effect on joint awareness and patient-reported clinical outcomes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷口, 浩人 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032716

主論文の要旨

Noise after total knee arthroplasty has limited effect on joint awareness and patient-reported clinical outcomes.

邦訳：人工膝関節置換術後の異音の膝関節への意識および患者立脚型評価への影響は限定的である

東京女子医科大学整形外科学教室

(指導：岡崎 賢 教授)

谷口 浩人

BMC Musculoskeletal Disorders 21 巻：** (2020 年 2 月 **日発行) に掲載

【要 旨】

背景：人工膝関節置換術 (TKA) 術後では、従来の医療者側の客観的評価に加え、Forgotten Joint Score-12 (FJS-12) (患者の関節への意識の評価)、Knee Society Scoring System-2011 (KSS-2011) (満足度、関節の機能の評価) などの患者立脚型評価 (PROM) が重要視される。また TKA 術後では、一部の患者は膝の異音を訴えるが、その評価法は確立されていない。この研究の目的は、異音が、術後の膝関節への意識や満足度、膝関節機能にいかに関与しているかを、FJS-12、KSS-2011 との関係を検証することで明らかにすることである。

方法：TKA 術後 1 年以上経過した 225 例 295 膝を対象に FJS-12 および KSS-2011、異音を聴取した。異音のアンケート法は 5 択選択肢により評価した。FJS-12、KSS-2011、および異音間の相関関係を分析した。本研究計画は、東京女子医科大学倫理委員会の承認を得ている (承認番号 4681)。

結果：FJS-12 と KSS-2011 の間に強い相関関係を認めたが ($0.70; p < 0.001$)、異音は、FJS-12 ($0.28; p < 0.001$) および KSS-2011 ($0.20; p < 0.001$) と相関は認められるも弱い相関であった。

結論：TKA 術後の異音は、治療した関節への意識や臨床成績に、あまり影響を及ぼさない。